

事業計画書

第Ⅱ期（平成29年8月1日～平成30年7月31日）

一般社団法人ハビリスジャパン

事業計画書

I 活動方針

1. 手や足に障がいのある子どもたちの成長と活動に“適した“環境を整えることで一人ひとりの可能性を広げ、成長を支え、未来を育む支援を行う。
2. 障がいがある子どもたちが、義手や義足を使うことにより、子どもたちの社会参加に向けた総合的な支援体制を築く。
3. 情報発信を行い、家族だけでなく、医療・教育機関等の関係諸団体と連携をとりながら事業を実施する。

II 今年度の主な事業

1. 障がいのある子どもたちの社会参加の支援事業

障がいのある子どもたちが、より良い社会生活を送るための機会創出を目的とするイベントを9回開催する。

- ① 3Dプリンター-work shop for kids 8月
- ② ポクとワタシのギソクとダンタン大阪 8月
- ③ キッズランニングスクール 11月
- ④ 運動教室を年に2回、うち1回は大阪 3月と5月
- ⑤ 料理教室を年2回 秋と春
- ⑥ 職業体験「キッサニアに行こう」を年に2回 秋と春

2. リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業

教育・啓蒙活動のための情報発信をインターネット、マスメディアを中心に行う。

(1) 教育セミナー開催

教育セミナーを実施し、研究者・教育者ならびに保護者の知識を高めるため

- ① 医療従事者を対象に3Dプリンター研修を行う。8月
- ② 第3回義肢装具学会学術集会において展示による情報提供を行う。10月

(2) 専用サイトの充実

イベントで得られた知見や専門部会委員が研究した成果などを、専用サイトを通じて広く発信することにより、教育・啓蒙活動を行う。

専用サイトアドレス（<http://habilisjapan.wixsite.com/habilisjapan>）

(3) ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の専用アカウントによる情報発信

Twitter、FacebookならびにYoutubeの専用アカウントを取得し、イベントで得られた情報を発信することにより、専用サイトへの誘引を行う。

(4) マスメディアを通じた情報発信

イベント実施時などにマスメディアに対してニュースリリースを行い、取材対応をすることによって、本法人の目的を広く情報発信する。

3. 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業

日本製の小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発を行うための基礎的調査として今年度は上肢欠損のこどもの運動用義手に対するニーズ調査に関して評価手段の検討決定とともに質問紙を作成する。

(1) イベントを通じたニーズ把握

①イベントの都度利用者に対してアンケート調査を実施し、利用者のニーズの把握と今後の改善点を把握する。

②イベントに参加の専門家からヒアリング調査を実施する。

4. 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業

障がいのある子どもたちを対象として様々なスポーツ活動、具体的には跳び箱、マット運動、鉄棒等を行うに当たり必要な義肢用部品及び運動用具の整備を行う。あわせてアタッチメント部品の製作を行いこれらをイベント時に貸与する。

5. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 会員、寄付者、提携サポーターの募集活動

本法人の目的を広く認知していただくために、個人会員、賛助会員、寄付者、サポーターの募集を行い、本法人の長期的な運営資金を確保する。

今年度は100名、180万円を目指す。

(2) ネットワーク体制の構築

全国の医療機関、義肢装具製作会社、義肢部品製造・販売会社、自治体、マスメディアならびに障害者スポーツ協会などの各種団体との連携を行う。

(3) 物販の企画

本法人の目的を広く認知していただくために、グッズなどの販売を行うための商品企画を行う。今年度はTシャツを企画している。

(4) WAM助成金および三菱財団助成金の活用

平成29年4月～30年3月までの期間を対象に独立行政法人福祉医療機構の実施する社会福祉振興助成事業による助成金517万円の交付を得、4月以降は三菱財団助成金を得たので、助成金をフルに活用する。